



中央検査部だより



2015. 1. 9 発行 第 51 号

新年を迎えて

中央検査部技師長 室谷里見

新年明けましておめでとうございます。昨年は、中央検査部にとりまして、新たな変革を予感させる1年となりました。2月に実施された輸血部門に対する「I&A」更新審査は12月に最終報告を受け1項目について改善の指摘を受けました。4月は、新人2名を迎え、生理検査部門の充実に向けた準備をすることができました。その他の部門についても、業務および人員配置の効率化を図っている状況です。10月は、「病院機能評価 3rdG.v1」審査の中間報告で臨床検査部門が「S」評価を受けました。検査部として、この評価結果に恥じないよう今後も「質の高い検査サービスの提供」を目指して検査部スタッフ一丸となって業務に取り組むことを再認識しています。11月末には、検査部門に対する「ISO15189」の更新審査を受審しました。今回は2007年版から2012年版への規格変更に伴う移行及び更新審査であったため5項目の不適合事項、7項目の注記事項に対して改善するように指摘を受けました。現在、「I&A」および「ISO15189」の審査で指摘された項目については是正処置を実施し「品質とサービス改善」に努めております。「ISO15189」の審査結果は、3月末までに報告される予定です。

2015年（平成27年）は未年で、動物にあてはめると羊になります。羊は家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされています。また、群れをなして行動し、先導するものに従う傾向が強いといわれています。今年も、病院全体の取り組み課題である「外来改革」が本格稼働する予定ですが、検査部門も他部門と協力してこの改革に取り組み、「患者さんへの医療サービスと患者満足度の向上」に貢献できるように努力して参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

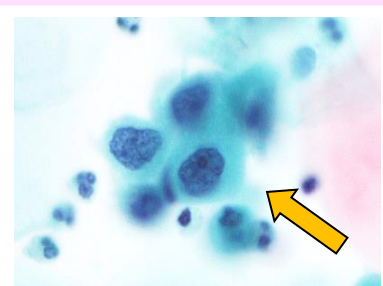
液状処理細胞診(LBC)について

病理検査室 安永佳麻里

液状処理細胞診(LBC)とは採取した細胞を固定液に浮遊させて固定し、標本作製する方法です。

LBCで作製した標本はスライドガラスに細胞を直接塗抹しないので細胞の変性が少なく、顕微鏡で診断するときも細胞の重積がなく、診断に必要な細胞が優先的にスライドガラスに付着するため診断精度が向上するとされています。そのため子宮頸部細胞診においてLBCを用いた診断が推奨されています。

当検査室においても婦人科にご協力いただいて昨年12月から子宮頸部細胞診にLBCを採用しています。今後は尿、体腔液などの検体にも応用したいと考えています。



LBC標本に出現した異型細胞



🍏 CPX (Cardiopulmonary exercise test:心肺運動負荷試験) について 🍏

生理機能検査室 岩根正樹

当院では今年度から心臓リハビリテーションを開始しました。狭心症や心筋梗塞、心不全等の心疾患患者は運動療法をすることにより、心事故回避率や再入院率、生命予後率の改善が報告されています。心臓リハビリテーションの需要は年々増加しています。

これに対応し生理機能検査室では10月よりCPX(心肺運動負荷試験)を開始しました。CPXとはエルゴメーターを用い、呼気ガス分析を併用して行う運動負荷検査です。運動負荷と同時に呼気ガス分析を行うことで、呼吸動態や循環動態という、いわゆる心肺動態ばかりでなく、代謝動態も評価でき、運動耐容能や運動能力などを客観的に評価することが可能です。

CPXを受ける対象は、急性心筋梗塞、狭心症、開心術後、大血管疾患(大動脈解離・大動脈瘤・大血管術後)、慢性心不全、左室駆出率(EF)40%以下等です。

心疾患の患者に運動負荷をかける為、医師立ち合いのもと検査を行います。検査方法は専用マスクを着用後、呼気ガス分析装置を用い、心電図や血圧計をモニターしながらエルゴメーターを50~60回/分の一定のペースでこぎ続けます。始めはペダルに一定の負荷がかかり、時間の経過とともに負荷が強くなります。検査中は患者の様子やバイタル、ボルグ指数を確認します。検査は約15分で終了し、その後データ解析を行い、AT(嫌気代謝性閾値)を求めます。

CPXではATの決定が非常に重要です。ATとは呼気ガス分析装置を使用して求めた、乳酸が生産される直前の運動閾値です。このATを少し下回る強度での運動は安全かつ効果が高く、患者さんの体力や状態に合わせた値の運動処方箋を作成することが出来ます。

リハビリテーションでトレーニングする運動量はきつすぎても体に負担となり、逆に軽すぎても効果は期待できません。すなわちATは心臓に負担をかけず、効率よくトレーニング出来る運動量と言え、具体的なトレーニング方法等の指導に役立ちます。



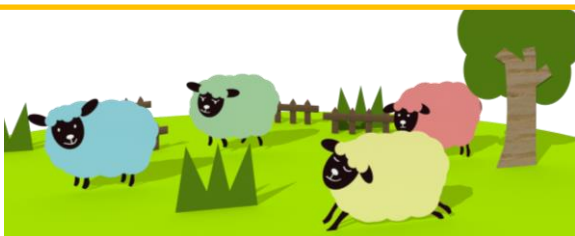
細菌検査検体の時間外の取り扱いについて

以前、時間外に採取された細菌検査検体の取り扱いについてご案内いたしましたが、周知徹底のため、再度お知らせいたします。

今までは各部署の冷蔵庫などで保管の後、平日時間内に細菌室に提出をして頂いていましたが、2014年10月27日より、細菌室前室内の冷蔵庫に保管提出をお願いしています。

なお、血液培養ボトルについては今まで通り、細菌室通路の専用恒温器に入れてください。取り扱いについての詳細は、検査部からのお知らせ2014年No.17を参照下さい。

細菌検査室



編集：安永、佐々木、中村、藤井、岩根、乙藤